

第3回 合流式下水道緊急改善事業の総合的評価と今後のあり方検討委員会

議事要旨

1. 日 時 : 令和5年5月31日(水) 15:00~16:50
2. 場 所 : 公益財団法人日本下水道新技術機構 8F 特別会議室、WEB 併用

【議事概要】配布資料により事務局から説明が行われた後、「今後の合流式下水道の施策のあり方について 提言(案)」について議論が行われた。委員からの主な意見は以下のとおり(提言における表現の修正・意見等は省略)。事務局にて修正案を提示したのち、本検討委員会として提言を公表することとした。

○本提言は、これまでの施策結果と残存する水環境の課題を踏まえ、水域ごとの合流式下水道の対策強化がポイントの一つとなる。一方、合流式を採用している都市では、引き続き、未処理越流水等と向き合っていくことが前提となるため、雨天時放流水質基準の遵守やモニタリングの継続等、今後の取組方針として示した方がよい。また、水質対策においては既存施設のさらなるポテンシャル活用やDXによる運転管理の効率化も検討可能であり、このようなことも本提言に示すことが望ましい。

○本提言は、合流式下水道の施策の基本的な考え方を下水道管理者から地域住民や水域の視点に転換することが大きなポイントである。ただし、地域住民の視点では、晴天時の水辺環境や水のきれいさ等が主な指標となり、雨天時の水質指標には結びつかない場合があることや下水道対策による貢献度の定量化が難しいことも課題である。このため、下水道管理者が柔軟に対策を進められるように、水域ごとの状況や地域住民のニーズに応じた目標設定が可能であることを本提言に示すことが望ましい。

○水域ごとの目標設定は、地域の連携から環境部局が中心に設定することが望ましい内容である一方、下水道管理者が水環境改善のために実施した施策が後の水辺環境の創生に繋がっている事例もあり、下水道管理者が積極的に関与・貢献する視点があってよい。

○水域ごとの目標や評価指標は多様な設定が想定されることから、より良い設定を支援するため、様々な事例や経験を蓄積して情報共有や検討を促進していくことが望ましい。

○分流化は、合流式下水道の衛生面での課題を解決するため取り組むべき方向性の一つであるが、ノンポイント汚濁負荷の課題もある。ノンポイント対策については、分流式・合流式を問わず、下水道による水環境管理に取り組んでいく上で、今後検討していくべき課題である。

(以上)